

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	20	学校名	池田高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	～生徒一人一人を大切に、E S D (持続可能な開発のための教育) を推進するユネスコスクール～ 校訓「向学・友愛・練磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> 池高で身に付けた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒 池高で伸ばした個性や知性を武器に、環境の変化を恐れず、自信をもって挑戦できる生徒 池高で育んだユネスコスクール等の理念を誇りに思い、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒 	
	生徒をどう育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の能力や学習状況等に応じて常に工夫改善し、生徒自らが学力の定着と向上を図っていく、探究的な授業の実施 授業や課外活動で培った知識・スキルを活かし、主体的で協働的な探究活動を通じて、自身のキャリアステージにつなげる「総合的な探究の時間」の実施 ユネスコスクールとしてE S D、S D G sを推進し、グローバルな視点を持ちながら、地域と協働する実践的な探究活動の実施 	
	どんな生徒を待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や目標に向け、自分の基礎を築き、自分の強みを伸ばすために、探究的な学びに挑戦したい生徒 自身をしっかりと見つめ、さらに多様な他者との対話を通して、考えを広め深める体験がしたい生徒 ユネスコスクールの理念に賛同し、福祉・環境・国際等の分野で活躍したい生徒 	
学校の抱える課題	職員一人一人にかかる業務量の多さ 単位制への完全移行に伴う効果的な運用 「総合的な探究の時間」を軸とした教科横断的な探究的学習活動の活性化 学習意欲の喚起と学力の向上及び生徒の多様な進路希望を支援するキャリア教育の充実 自ら自己指導能力や規範意識を高め、安心安全な学習環境を整えることができる生徒の育成		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	保護者や地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進するとともに、働きやすい職場づくりに努める。	
	学習指導	総合的な探究の時間において、地域課題を自分事としてとらえ、主体的・協働的に取り組むことで身に付けた資質や自信を自らのキャリア形成に生かしたり、積極的に地域社会に参画しようとする姿勢を養う。 全職員によるカリキュラムマネジメントにより、探究的な学びに必要な資質を教科横断的に身に付け、生徒自らが新しい地域社会を生き抜く力を育成する。	
	進路指導	学年ごとに積み上げる確かなキャリア教育を通して一人一人が将来に対する明確な目標を設定して、学習意欲の喚起と学力の向上に努め、生徒の多様な進路希望を支援する。	
	生徒指導	生徒一人ひとりの健全な成長を促し、生徒自らが現在および将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	生徒が充実感をもって安心安全な学校生活を送ることができるとともに、身につけた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒を育成する支援体制の整備	1	施策Ⅰ-1	生徒及び保護者等アンケートにおいて学校生活の充実に関連する項目での肯定的評価の割合			
	地域や外部教育機関等と連携し、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒の育成	4	施策Ⅰ-4	探究的学習活動やボランティア活動等での外部との連携や活用の実施数			
	出退勤管理システムや各種制度も利用しながら勤務時間管理に努め、無理のない働き方を促進する。	27	施策Ⅳ-27	時間外在校時間45時間を超える職員数			
	ハラスメントのない風通しの良い職場環境作りのための職員研修や意見聴取	28	施策Ⅳ-28	アンケートなどを含めた様々な機会での状況把握			
学習指導	職員研修を通して効果的な学習と生徒の能力の育成を実現する体制を整備し、基礎学力の底上げを図る。	26	施策Ⅳ-26	年2回の生徒授業評価(授業の理解度評価)			
	自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動を全科目で取り入れ、探究的なものの見方、考え方を育む。	8	施策Ⅱ-8	年2回の生徒授業評価(探究的な学習に対する生徒の実感評価)			
	外部との連携強化等を図り、総合的な探究の時間の活性化を行う。成果を発表することで思考力、発信力を育て進路に結び付けられるようにする。	13	施策Ⅱ-13	探究の時間の成果物 外部コンテストの成績 年2回の生徒授業評価			
進路指導	平常補習・夏季補習、スタディサプリ、外部模試を活用し、確かな学力をつけます。	8	施策Ⅱ-8	スタディサプリや到達度テストの活用率を向上させる。			
	地域・上級学校と連携しながら、組織的・計画的に進路指導を行い、生徒を進路実現に導きます。	13	施策Ⅱ-13	コース別ガイダンスを実施して、参加率を上げる。			
	ICTを活用した効果的な学習支援システム(スタディサプリ)や小論文・志望理由書対策を行う。	9	施策Ⅱ-9	キャリアパスポートを活用し「一年間の振り返り」で肯定的評価80%以上を目指す。			
	キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己肯定感を高めることで、様々なことに挑戦させる。	1	施策Ⅰ-1				
生徒指導	すべての教育活動を通じて、生徒自らが自己の基本的生活習慣を確立するために全職員による生活指導を行う。	3	施策Ⅰ-3	出席状況、保健室および教育相談室利用状況 S C利用状況			
	他者を理解し、より良い人間関係を築くために学校内外における奉仕活動や学校行事を行う中で、教職員が生徒一人一人に応じた支援する。	3	施策Ⅰ-3	「心のアンケート」			
	生徒自らが考え行動できるようになるために、全教職員があらゆる場面で生徒の気づきや変化を捉え、適切な助言をする。	1	施策Ⅰ-1	「心のアンケート」			

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和7年 月 日